

岡山県知事賞

魔法

岡山県立津山中学校

二年生 秋元千歩

「千歩、お茶でも飲むか？」

「もらおっかなー。」

これは、私がひいばあちゃんの家へ行った時に、必ず交わす会話です。私のひいばあちゃんは家に来た人にお茶を出すことが好きです。惣菜そうざいを作った持ってきたくれた近所の人、郵便配達員のおじさん、家電の修理に来た人など、様々な人にお茶を出します。私はそんなひいばあちゃんが大好きです。

ひいばあちゃんは、帰りが遅くなる両親の代わりにお弁当のおかずを作ってくれます。その中に時々、きんぴらがあります。そのきんぴらには、魔法がかかっているのではないかと思うよ。うな、とてもおいしい味付けがしてあります。でも、不思議な

ことに母が同じ材料を使って作っても、同じ味になりません。ひいばあちゃんにしか分からない、野菜を入れる絶妙なタイミングが、きつとあるんだろうなと思います。

魔法がかかっている、と思う理由はもう一つあります。それはきんぴらを食べると絶対笑顔になるからです。食べると絶対笑顔になる料理はそうそうありません。ひいばあちゃんに、

「あの味ってどうしたら出るん？」
と聞くと、

「えっとなあ、だいたいじゃ。」
と、笑いながら答えられます。いつかあの味が私にも出せるようになるかと思っています。

また、正月には年越しそばの代わりに、年越しラーメンを毎年作ってくれます。スープが手作りなので、世界に一つだけのラーメンができます。それを食べた人は、「おいしい」という言葉を二回は言います。それを聞いたひいばあちゃんは、

「そうかそうか。」
と、笑いながら言います。ひいばあちゃんが作る料理にかける魔法は、食べた人に笑顔になってももらえるように、料理を作ることなのだろうなと思いました。

ひいばあちゃんには、好きなことがたくさんあります。その中の一つが数独すうどくです。ひいばあちゃんの家へ行くと、大抵数独をしています。それも九かける九マスではなく、もっと大きなものであったり、つながっているものであったりします。一度解こうとしましたが、三分もしないうちに解けなくなりました。また、韓ドラを見ることも好きで、昼間録画しておいたドラマを夜に見ています。すると二時や三時まで起きているので、母が、

「不良老人じゃ。」

と言うと、ひいばあちゃんは笑って誤魔化します。そんなところも、ひいばあちゃんらしいなと思います。

しかし、この頃心配なことがあります。ある日、私がひいばあちゃんの家へ帰ると、頭をホツキスの針でとめたひいばあちゃんがありました。どうしたのか聞くと、

「ちよっとこけて、その川に落ちたんよ。」

と、普通に言ったのですが、私は思わず、

「えー！」

と叫びました。その川というのは、幅が三メートルほどで深さは五十センチにも満たないので、足から落ちても何ともない

のですが、なんとそこへ頭から落ちたそうなのです。その時たまたま近所の方が家へ来て、その人に病院へ送ってもらえたので良かったけれど、その人が来ていなかったらと思うと、今でも鼓動こどうが速くなっています。

また、最近では、一度も座ったりせずに歩いて行くことができていた距離も、何度か休みながら行かなければならなかったり、右手を上げる時に左手で支えてあげなければならなかったりします。そんな姿を見ていると、母や祖母が、

「外に出て運動せんと。」

と言う気持ちがあります。でもひいばあちゃんはいつも口では、

「行く行く。」

と言いながら、時々行かない時もあるそうです。

私はひいばあちゃんに、長生きをしてもらいたいと思っています。だから、これからは、

「外、きれいじゃで。」

など、外へ行くように促したり、

「一緒に散歩行こ。」

と誘ったりして、ひいばあちゃんが寝たきりにならないように、

家族皆で支えていきたいです。また、ごはんを誘って皆でいる時間を大切に、過ごしていきたいです。そして、これからもひいばあちゃんの魔法がかかったきんぴらを食べたいです。